

ブレンデッドラーニングを導入した保育者養成向けピアノ実技指導（その1）

京都女子大学 深見友紀子
長岡技術科学大学 中平勝子
東京藝術大学大学院修了 赤羽美希

ピアノ実技は保育者(保育士・幼稚園教諭)採用試験における必出課題だが、ピアノ実技指導に十分な時間を確保することができる保育者養成機関はほとんどないといっている。筆者が勤務する京都女子大学児童学科の場合も、学生一人あたりのレッスン時間は週5～10分程度であり、しかもピアノ実技関連科目は「児童音楽」(2年次前期)のみとなっている。このような状況では、入学前にピアノ学習経験がない学生が保育者として必要な実技能力を授業内で習得するのは限りなく不可能に近い。

学生一人あたりのレッスン時間の不足は、保育者養成機関が常に抱えている問題であるため、これまでも多くの機関でML(ミュージックラボラトリー)の使用など、さまざまな実践がなされてきたが、我々は昨年度からICTを取り入れ、学生の実技能力の改善に取り組んでいる。(平成18・19年度科学研究費補助金基盤研究C)

本実践の特徴は、ブレンデッドラーニングに着目し、ピアノ実技レッスンに導入したことにある。リアルタイムの教室での対面(同期)指導・学習と、遠隔の教師による非対面(非同期)指導、学生による自主的な学習を組み合わせ、対面(同期)指導・学習では実現できない教育効果をあげることを意図しており、従来の取り組みとは一線を画している。

昨年度以降実施したこと、現在進めていることを以下に示す。詳しい説明は口頭発表時に行う。

1. 学生によるピアノ弾き歌い演奏映像の提出～

平易な操作で録画・保存・映像提出が可能な「KS20」(FUJINON CORPORATION)を練習室に設置し、「児童音楽」履修生104名が期末実技試験に向けたリハーサルとして自身のピアノ弾き歌いを録画し、教員に提出した。映像提出回数の最低は0回(0曲、14名)、最多は2回(2曲、25名)、最高は10回(10曲、2名)平均は2.7回(2.7曲)。提出回数と期末実技試験の点数には正の相関があったⁱ。(2006年6～7月)

2. 演奏に対するアドバイスシートなどの作成～

1. の演奏映像を分析し、提出回数上位7曲の演奏に対して、遠隔の教師が習熟度に合わせたアドバイスシートと注意点を書き込んだ楽譜を作成し、学生にフィードバックしたⁱⁱ。(2006年8～10月)

3. ピアノ弾き歌い模範演奏コンテンツの制作～

2. の7曲(各3アングル)のピアノ弾き歌い模範演奏の撮影・制作を行い、大学サーバーからの配信を開始。(2006年12月～2007年2月、2007年6月)

4. 補習学生に対する非対面レッスンの実施～

補習学生が提出したピアノ弾き歌い演奏映像に対して、遠隔の教師が3回にわたってアドバイスシートおよび書き込み楽譜によって指導し、非対面(非同期)指導の効果、対面レッスンとの差異などを考察した。(2006年10月～2007年5月)

5. 3. の模範演奏を視聴する前後の演奏比較～

「児童音楽」既修生が2. の7曲のいずれかを選んでピアノ弾き歌いを録画した後、3. の模範演奏を視聴して同一曲を再録画。模範演奏視聴の効果进行分析し、「KS20」で撮影した映像によるアドバイスを非対面で行う。(2007年6月～)

6. 声楽模範演奏コンテンツの制作～

発声、歌唱に関する解説映像を撮影・制作し、大学サーバーからの配信を開始する。(2007年9月～)

ⁱ 中平勝子・深見友紀子・赤羽美希他「保育者養成教育における映像提出を併用したピアノ実技指導」2006年11月3日 日本教育工学会第22回全国大会 関西大学総合情報学部

ⁱⁱ 深見友紀子他「ピアノeラーニングに向けて～学生が演奏映像を自主的に提出する試み」2007年2月 京都女子大学発達教育学部紀要 第3号 p.33-41、「保育士・幼稚園・小学校教諭を目指す人のために この一冊でわかる ピアノ実技と楽典」2007年5月、音楽之友社